

第 18 号

発行：平成 24 年 7 月

松浦武四郎記念館友の会

会員数：109 名(平成 24 年 7 月 8 日現在)

(家族会員=8 名、個人会員=101 名)

松浦武四郎記念館友の会



友の会だより

友の会事務局：松阪市小野江町 383

松浦武四郎記念館内

連絡先：電話 0598-56-6847

Fax 0598-56-7328

発行責任者：飯田 秀

友の会の定期総会が開催されました！！

平成 24 年 5 月 13 日(日)松浦武四郎記念館会議室において、平成 24 年度松浦武四郎記念館友の会の定期総会が開催されました。(40 名出席)

総会に先立ち、友の会主催の特別講座として、斎宮歴史館友の会大川吉宗会長に「大台ヶ原山と武四郎」のテーマで講演していただきました。

大川会長は記念館が出来前から武四郎についても研究されており、学生時代から大台ヶ原に登ったり、三重県内の偉人や食についても造詣が深く武四郎についても多面的に見ておられ、今までの武四郎講座とは異なった趣きのある講座となりました。

引き続き総会が開催され、来賓としてお越しいただいた三雲地域振興局の松本弘次長から挨拶を頂戴しました。

飯田秀会長の挨拶、平成 23 年度事業報告、会計報告、監査報告、平成 24 年度事業計画、予算計画などが審議され、承認されました。今後の事業に多くの会員方々に参加していただき、活発な友の会活動になることが、望まれます。



講演される大川会長



来賓挨拶される松本次長



事業報告する佐波副会長



総会出席者

平成 24 年度事業の方向性

- ☆ 武四郎記念館での講座に参加して共に学ぶ
 - ☆ 松浦武四郎記念館主催の行事に支援・参加協力
 - ☆ 友の会誌年 4 回発行をホームページを作成し情報発信
 - ☆ 「友の会」自主事業の実施
- その他の主な事業は次の通りです。

- 神鏡を訪ねるバス研修旅行
- 友の会特別講演・講座
- 県内の松浦武四郎の足跡を訪ねる旅
- 松浦武四郎シンポジウムへの参加協力
- 武四郎まつりへの協力
- 市政バスツアー実施
- アイヌ文化体験
- 市政バスツアー
- 等々

着任のご挨拶

松浦武四郎記念館 館長 中野 恭

野山の緑も深まり、初夏の様相を呈する頃となりました。皆様方に於かれましては、益々ご健勝の段とご拝察申し上げ、心よりお慶び申し上げます。

さて、私こと、松阪市教育委員会よりご辞令を頂戴したことを受け、宮本正道前館長様の後任を承り、4 月 1 日付けを以て松浦武四郎記念館 館長に就任致しました。

この任をお預かりする 3 月末日までは、記念館に隣接する松阪市立小野江小学校に、校長



として勤務させていただいておりました。その間、松浦武四郎記念館友の会 飯田秀会長様はじめ会員各位の皆様方に、温かいお導きを頂戴いたしましたことに対して、厚く御礼申し上げます。もとより、浅学非才に加え、若輩者でございます。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ご案内のように、過年度、松浦武四郎記念館は、国の指定博物館に登録され、博物館法に則った運営を行い、日々の業務を推進しております。館内に、1,500 有る重要な文化財を所蔵する故を以て、松浦武四郎翁の顕彰を深めていく任務を負っております。

ところで、松浦武四郎翁は、輩出地「小野江」に止まらず、松阪市の宝でもあります。近年、武四郎翁研究が進み、武四郎翁の偉大ともいえる業績への関心はもとより、生涯を「蝦夷地の踏査」に捧げた「武四郎の生き方」に学ぶ気概が高まってきております。その意味に於いて、松浦武四郎記念館友の会の諸事業及び諸活動を中心としたご支援は、松浦武四郎記念館にとりまして、誠に有り難く存じます。

尚、平成 26 年には、松浦武四郎記念館創設「20 周年」、平成 30 年には「松浦武四郎翁生誕 200 周年」に当たる「節目の年」を迎えることとなります。松浦武四郎記念館 友の会様に於かれましては、諸諸、ご支援・ご連携を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

末筆となりましたが、飯田会長 様はじめ、皆様方のご多幸とご清福、加えて、松浦武四郎記念館友の会様の益々のご発展を切にお祈り申し上げます、略儀ながら、ご挨拶に代えさせていただきます。

バス研修旅行報告

今年も『武四郎を読む会』と『友の会』共催で「武四郎が西日本25ヶ所の天満宮に奉納した神鏡を訪ねる旅」の第三弾として36名の方が参加され、兵庫県高砂市の曽根天満宮と近隣を訪ねるバス旅行を実施しました。

当日は天候も良く、金環日食が観測できるなど、当初の予定外の楽しみがあり、現地のボランティアガイドの方々のご厚意や、読む会の方々などの協力で楽しい旅行ができました。又、記念館の中野館長、山本学芸員始め職員全員にも参加いただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。参加された2名の方に感想文をお願いしました。



雲の合い間から
欠け始めの太陽

「武四郎の足跡」を訪ねて

木村 たづ (友の会 会員)

平成 24 年 5 月 21 日、7 時松浦武四郎記念館を出発、この日はくしくも金環日食と重なり二度とみられないだろう金環食観測させていただき感激いたしました。稲垣さんの司会進行で始まり、会長挨拶、高砂市に詳しい唐津さんより概要の説明のあと山本学芸員、高瀬名誉館長お二人の講座をいただく。

車内からは青葉の景色を眺めながら第一目的地石の宝殿生石神社へ二班に別れてガイドの説明、本殿に上がりご神体が大きな石なのでビックリ、しかも廻りには水が流れ浮石の様、昔の人々の苦勞はいかばかりかと話しながら頂上へ、眼下には素晴らしい景色が広がっていた。この山は一つの古墳であるらしい。盗掘されたのか石棺が放置されていた。ボランティアガイドの話によれば文化財でも手つかずの所だとのこと。



石の宝殿の天辺で、姫路城の方角を見る

次は菅原道真公ゆかりの曽根天満宮へ、本殿は修復中のため仮本殿にて会員参拝お祓いを受け、宮司さんのお話もあり、会議室にて昼食をとり、その後宝物館にて松浦武四郎が奉納された神鏡を拝観、又菅原公お手植えの松根が格納されており、その姿には何か恐ろしい程迫力が伝わってきた。現在の松は 13 代目とのこと。広い境内には梅の木もたくさん。古い絵馬も奉納されていた。

天満宮を後にして、日笠山へガイドさんについて登りも石段もあり人汗かいた肌に心地よい風、中程で一休みし夫婦岩まで頑張った。

最後に大塩天満宮へ、何度も移転し現在の所へ新しく建てられた。腰掛岩も拝見させて頂き帰途につく。今後も「足跡を訪ねて」の旅を楽しみにしています。この旅行についてお世話下さった方々本当にありがとうございました。

「嬉し恥ずかし初参加の記」 赤松 進(一志歴史語り部の会 会員)

兵庫県で生まれ育った私が、兵庫県への足跡探訪という嬉しくも恥ずかしい初参加となった。5月21日、「松浦武四郎を読む会」と「友の会」でご活躍の唐津さんの計らいで高砂市にある武四郎さんの足跡を訪ね、旧友との再会(50年振り)も楽しみでした。

この日は932年振り(大河ドラマ清盛さんの時代よりも約100年前)の完全金環日食が観られるとのことで、出発早々雲の合間から参加者全員でその間隙に浸ることとなりました。伊勢道から新名神・京滋バイパスを経て、名神・中国道・そして阪神高速北神戸線から神明道路・加古川バイパス高砂北ICへと、約3.5時間の旅でした。

すぐに、日本三奇、生石(子)神社、石の宝殿へ、高砂市歴史ガイドのお二人の案内で、神話にまで遡る神社の由来。特に未完成なままの“鎮目の石室”なる巨石塊にはおそらく武四郎さんも度肝を抜かれたことでしょう。全ては神の手になる神秘的な史跡。本当にスゴイとしかいいようがない。

私は友の関係で、高砂へは度々来ているのですが、“石の宝殿”は余り知りませんでした。そういえば JR 線に“宝殿”なる駅がありました。この史跡から来ているのですね。不覚恥ずかしのひとつ目。

曾根天満宮(ここも JR と山陽電車に“曾根”の駅があります。)武四郎さんが天満宮に“鏡”を奉納されている事は聞き知っていたのですが、鏡の大きさがさまざまことや、兵庫在住の時”松浦武四郎“を知りませんでした。それに”高砂の松“は知っていても”霊松曾根の松“なんて全く知りませんでした。恥ずかしのふたつ目です。

この神社内で昼食、私事ですが、旧友との再会ができました。“再会”と言えば、当宮の宮司さんと武四郎さんの子孫の奥さんとの131年振りのご対面式がありました。誠に幹事さんの企画力には敬意を表さねばなりません。

日笠山は道真さんも武四郎さんも登られて眼下の風景を楽しまれたところですが、小高い丘なのでしょうが、約3kmぐらいでしょうか。この登り下りは結構いいウォークとなりました。そして、大塩の古い街を抜けて、大汐天神から大塩天満宮へ参拝。

帰路は播但道から中国道へはிரり来た道に戻りました。土山 SA ではチョットした出来事がありました。全員元気で午後8時20分に記念館へ帰着しました。お疲れ様でした。幹事さんに感謝です。

私自身は“長生きすれば恥多し”の足跡探訪でした。



曾根天満宮宝物殿の鏡



5月23日付神戸新聞で紹介されました。

131年振りの「ご対面」

(談笑する曾根宮司と松浦逸子さん)



【松浦武四郎記念館よりのお知らせ】

松浦武四郎記念館 展示のご案内

◆武四郎と和歌・・・7月16日(月)まで

松浦武四郎は歌人でもあり、多くの和歌を詠んでいます。そこで、武四郎さんの読んだ和歌に関わる資料を展示し、歌人としても活躍した姿を紹介します。

◆武四郎とアイヌ民族・・・7月18日(水)～9月17日(月)まで

武四郎が幕末に六度にわたっておこなった蝦夷地探査の様子や、調査を通じたアイヌ民族との交流を、日誌などの著作や地図、アイヌ民族資料から紹介します。

◆武四郎涅槃図の世界・・・9月19日(水)～11月18日(月)まで

松浦武四郎は自らの亡くなる姿を釈迦の涅槃図になぞらえ、画家の河鍋暁斎に描かせました。「武四郎涅槃図」を中心として、そこに描かれた人物などが、武四郎のコレクションから抜け出したものであることを紹介します。

武四郎講座のご案内

8月12日(日)10時～11時、 テーマ：松浦武四郎誕生地と武四郎、講師：山本命学芸員

9月9日(日)10時～11時、伊勢街道・おかげ参りと武四郎、講師：山本命学芸員

10月14日(日)10時～11時、 テーマ・講師は未定です。

武四郎シンポジウム第2弾のご案内

9月16日(日)13時～ 誕生地見学後、記念館にて意見交換会実施 ※集合：松浦武四郎記念館
誕生地の活用など、市民の方との活発な意見交換・提案が望まれます。多くの方のご参加を！

3月末で宮本正道館長が退任され、4月から中野恭館長が就任されました。

今後とも、いままで同様松浦武四郎記念館をお引き立てください。

※中野新館長のご挨拶は一面にあります。

【松浦武四郎記念館友の会よりのお知らせ】

記念館北側の広場周囲と小野江小学校のプール横に北海道新聞社から贈られたエゾヤマザクラを植樹してありますが、今年は沢山の花が咲き、中日新聞及び夕刊三重で紹介されました。

今年もエゾヤマザクラの花がたくさん咲きました！！



昨年より多く花を付けたエゾヤマザクラを見る飯田会長＝小野江町で

北海道から贈られたエゾヤマザクラ咲く 武四郎記念館などで

松浦市小野江町の松浦武四郎記念館の活動に協力し、支援するグループ・松浦武四郎記念館友の会(飯田秀会長、106人)が、「北海道千本桜運動」を行っている北海道新聞社(札幌市)から贈られ、昨年初めて花を付けたエゾヤマザクラが今年も花を付けた。昨年よりも4本多い6本の木にきれいに赤みの濃い花を咲かせ、現在見ごろを迎えている。

この桜は、北海道では代表的な桜で、樹皮につやがあり、赤みが濃く美しいことから「紅山桜」と呼ばれている。武四郎が愛した花で、著書「蝦夷日誌」にも記している。同会では、武四郎生誕200年の2018(平成30)年には誕生地の松阪にきれいな花を咲かせ、北海道とのつながりをより深めようと08(同20)年から3年間、苗木を同館付近などに植えてきた。しかし植える時期、気候、土壌の関係で根付きにくく、これまでに植えた30本のうち17本は枯れてしまった。残った13本は専門家に相談し、学びながら愛情込めて世話をした。そのかいあり昨年、初めて花を付けた。今年も昨年咲いた同町の市立小野江小学校校庭付近の2本に加え、同館裏などの4本も花を付けた。多いもので80輪以上咲いているという。

飯田会長は「地域づくりとともに北海道とのつながりが強くなることを期待したい。武四郎誕生地にも1本植えたい」と話している。

4月21日付
夕刊三重の記事

三雲地域振興局入口のホットギャラリーにて、友の会の活動展示とエゾヤマザクラの写真展示を行っています。皆様是非ご覧ください。・・・7月31日まで。